

これからの教師に求められる 「アセスメント力」と「省察力・改善力」



転換期を迎える学校現場 理想と現実のギャップ

次期学習指導要領の3本柱



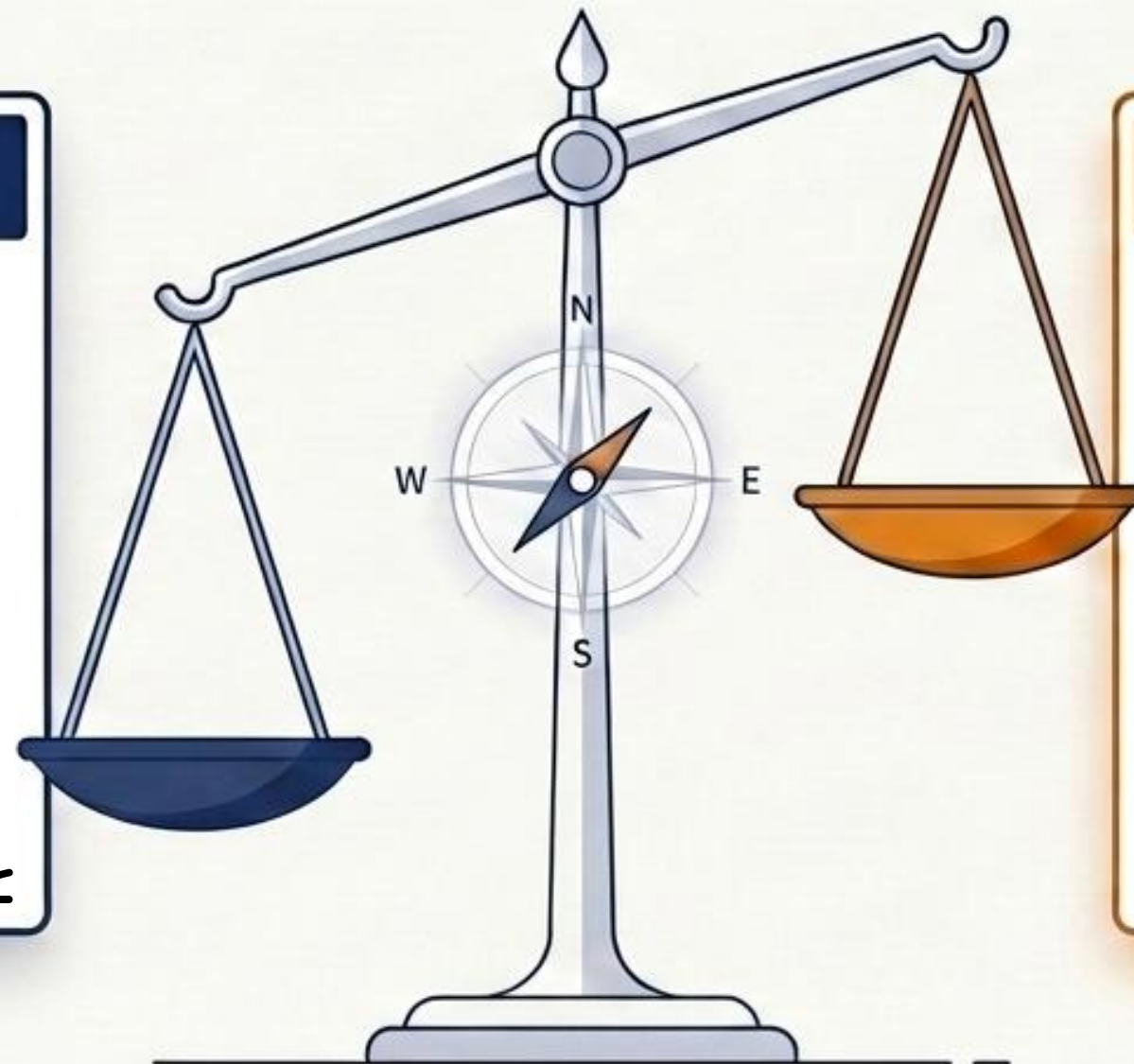
Excellence (卓越性)
主体的・対話的で
深い学びの実装



Equity (包摂性)
誰一人取り残さない
多様性の包摂



Feasibility (実現可能性)
学習内容の構造化や
授業時数の適正化による
「余白」を生み出すこと



複雑化・困難化する課題



不登校児童生徒数の急増



いじめや暴力行為の増加

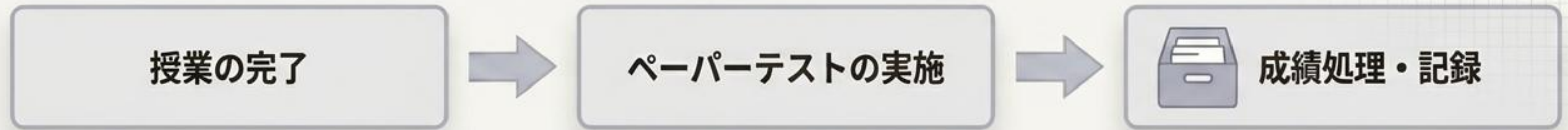


特別な支援を
必要とする子の増加

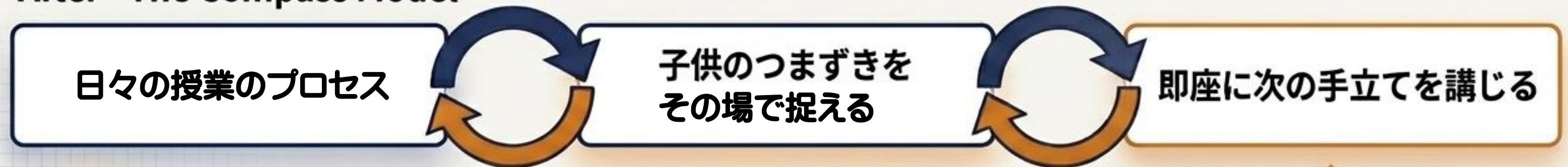
子供たち一人一人に伴走し、その学びを最大化するために
授業の在り方を「子供のつまずきをその場で捉え、即座に次の手立てを講じる『指導と評価の一体化』」へと転換

「指導と評価の一体化」へのシフト 成績処理から「羅針盤」へ

Before - Conventional



After - The Compass Model



評価が、次に進むべき道を示す「羅針盤」になる。

ペーパーテストへの依存から
「今、この瞬間の子供の姿」
から授業を柔軟に創り変える

アセスメント力を高める「2つのレンズ」



全体を大きく見渡す「マクロな視点」

- ・情報源：全国学力・学習状況調査
 - ・見る視点：全体傾向の把握
- 「思考・判断・表現」に関する問題に課題、全教科共通して「情報を取捨選択する力」や「論理的根拠に基づいた表現力」の不足

主観や経験だけに頼ることへの脱却



個人の姿をじっくり見る「ミクロな視点」

- ・情報源：日々の言動、1人1台端末の活用
- ・見る視点：プロセスの中にある小さい変化、「自分で問いを立てて動き出したか」「他者との話し合いを通じて自分の考えをどう深めたか」といった「一瞬のきらめき」を見取る

目の前の子供の小さなサインを捉える

省察力・改善力：つまずきを見逃さず、即座の手立てを打つ

1. アセスメント

授業中の具体的な言動、
つぶやき、表情の変化を
捉える。

2. 省察

「これまでの教え方のどこ
に問題があるか？」「子供
はどこで立ち止まっている
のか？」と自問する。



評価は成績処理
のためだけでなく、
日々の授業設計
を常に振り返るた
めの「羅針盤」

3. 改善・柔軟な設計

その場でのサポートや
発展的な投げかけなど、
即座に授業を改善する。

【WORK 1】 自校のアセスメントの現在地（ペアワーク）



「あなたの学校では、マクロ（データ）と
ミクロ（日々の姿）のアセスメント、
どちらが得意で、どちらに課題がありますか？」

Discussion Guide

全国学調の分析は得意だけど、
日々のICTの見取りはまだかも…

目の前の子供の反応を見るのは得意だけど、
データに基づく全体俯瞰は課題かな…

お隣同士で、自校の現状について気軽にお話してください。

推進員の役割：「孤軍奮闘」から 「チームの伴走者」へ



孤軍奮闘

先生方の一番近くいる「実践のパートナー」として、みんなで負担を減らし、ゆとりをもって授業づくりを進める仕組みを作る。



負担を減らす3つのアプローチ

- アプローチ① 実行プランをお助けツールへ
- アプローチ② スマートな授業研究 (ICT最大活用)
- アプローチ③ サークル型メンター制 (相談の輪)

アプローチ①：「学力向上実行プラン」を「お助けツール」へ



形骸化した書類



生きたツールボックス

年度初め

中間期

年度末

データの持ち寄り

全国学調や県ステップアップテストの結果が判明するタイミングで現状を共有。

現場視点での対話

「今の具体的方策は、本当に実践しやすいものになっているか？」を話し合う。

柔軟な見直し

日々の授業で困ったときに立ち戻れる、実用的なプランへと軌道修正する。

アプローチ②：ICTを最大活用した「スマートな授業研究」



非同期での視聴

研究授業を端末やカメラで録画。他学年の先生も空き時間や放課後にいつでも視聴可能。（他の校務のために参加を諦めさせない）

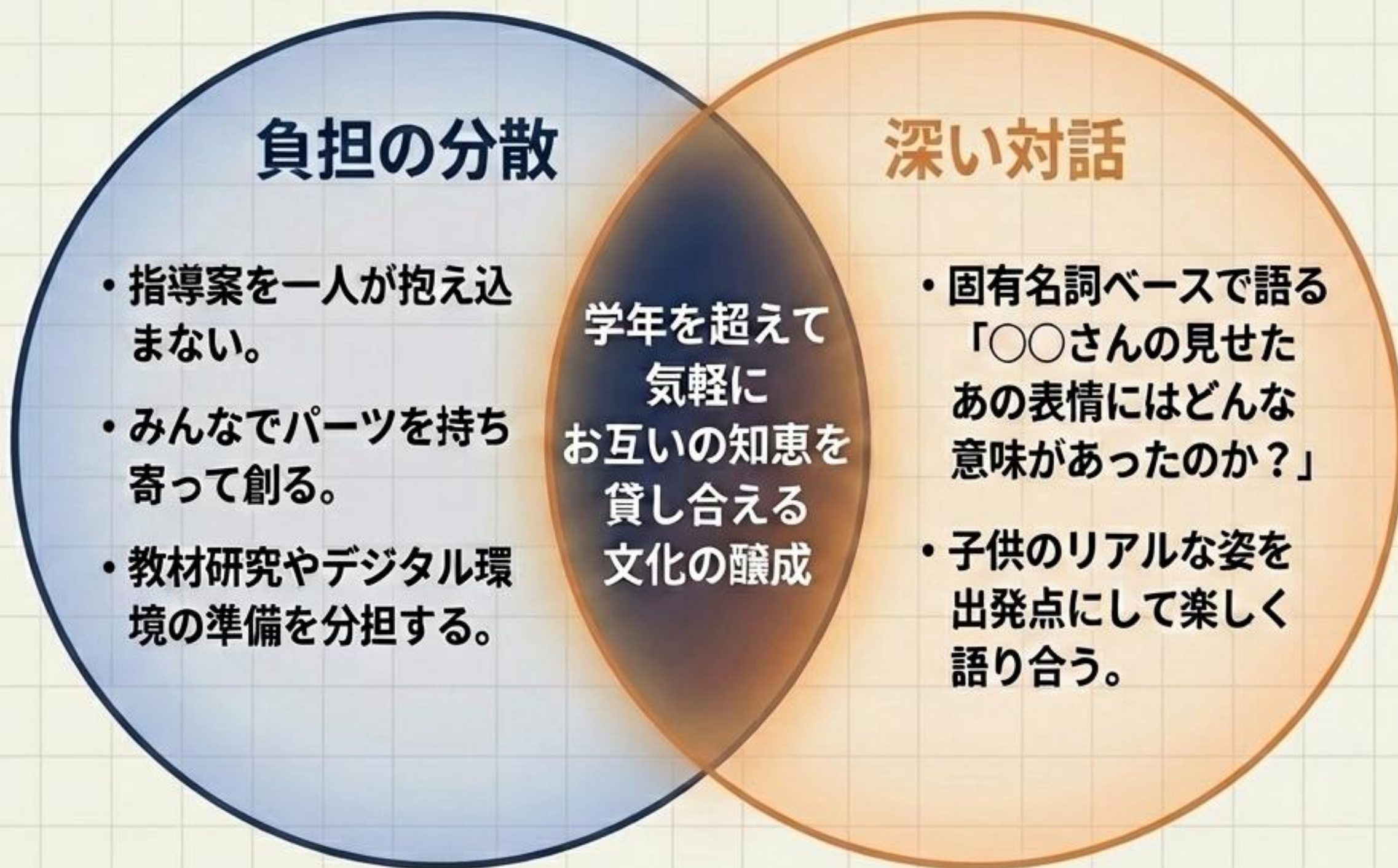


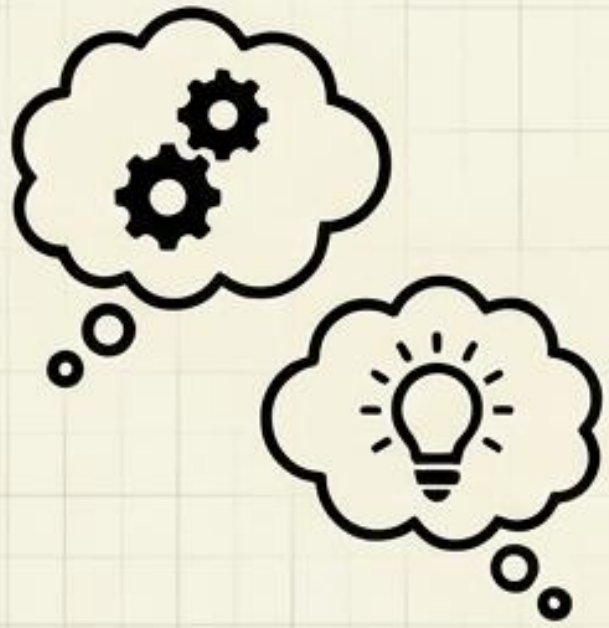
リアルタイムな可視化

授業中・授業後に気付いた「子供のつぶやき・見取り」を、クラウド共同編集シートに各自がその場で書き込む。

集計や準備の負担が大幅に軽減され、前向きにアイデアを出し合える環境が生まれる。

アプローチ③：「徳島型メンター制度Ⅱ」で相談の輪を広げる





学力向上推進員として、本日の協議内容を踏まえ、今後「行ってみたいアクション」や「試してみたいアイデア」はありますか？

Discussion Points

- ・本日の話を聞いて、自校で具体的に取組めそうなことは何ですか？
- ・他の先生方と協力して進められそうなアイデアはありますか？

最も重要な基盤：教師の心と時間の「余白」



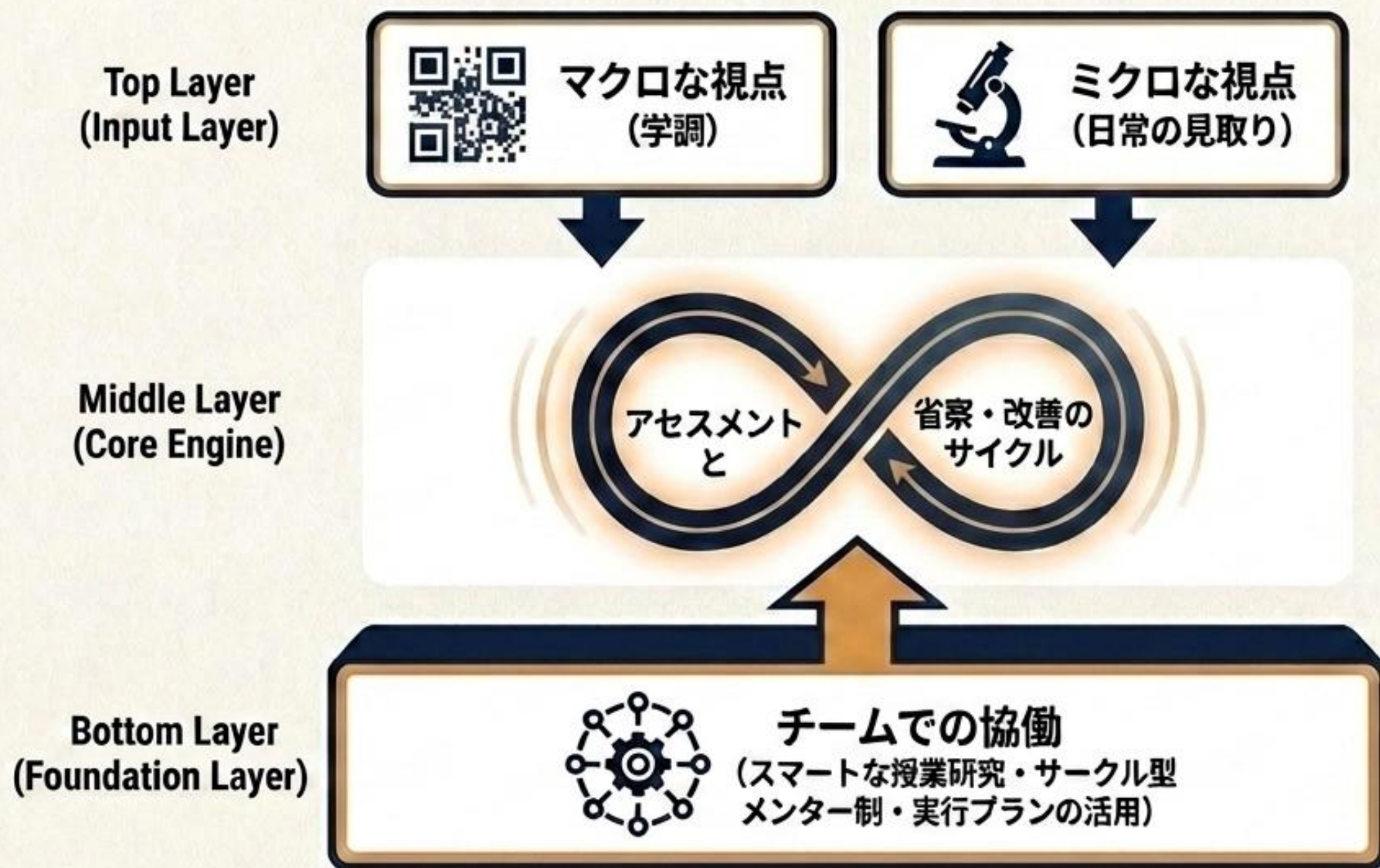
余裕のない状態



余白

日々の授業準備に追われる現状を打破し、教師自身の心に「余白」を生み出す。
それこそが、授業中に子供たちの心の機微や「つまずきのサイン」を、
ゆとりをもって捉えるための絶対条件である。

チームで創る、学びの最大化（全体像）



学校全体の教育力が高まり、子供一人一人の学びを最大限に引き出す。

「子供たちのリアルな姿を出発点に。」

データや子供たちの生の反応を力に変え、
先生方を一人にしない伴走者として、
これからも仲間と共に授業をアップデートしていきましょう。

